晩秋の一日、茶話本舗デイサービス「府中若松の風」と「三鷹連雀の風」の二つの事業所を訪ねた。ここは、民家を利用して定員10名までの小規模なデイサービスを行っているユニークな老人介護施設だ。どちらも閑静な住宅地の中の一軒家で、紺地の布に白く文字を染め抜いた「介護職人」の旗がなければ一般のお宅とまったく区別がつかない。

一人ひとりの人生と向き合う介護を

茶話本舗デイサービスの熱い取り組み

居間に入るとお年寄りたちがカルタをしたりお茶を飲みながら談笑したり、数人ずつ思い思いの場所でくつろいでいた。スタッフの方によれば、その日のお天気やメンバー、体調などに合わせて、散歩や買物に行ったり、庭の掃除をしたりもする。まるで自宅にいるような感覚で、それぞれが自分の役割を見つけて、すすんで洗濯物をたたんでくれたり、食事の支度や後片付けを手伝ってくれたりもするのだそうだ。そんな日常の中で役割を担いながら「○○さん、ありがとう」と周囲から感謝を受ける精神的満足感、並びに身体機能の維持・回復を目指す「生活リハビリ」を取り入れている。

「車イスの方や麻痺の方、認知症の方など、うちには本当に様々な症状の方が来られます。でも、どんな方でも自分でできることはたくさんありますし、皆さんそれぞれ生きてきた人生のプライドもあります。たまには喧嘩することもありますけど、それで脳が活性化する、ということもあるでしょう。私たちは手助けはするけれどもあくまで黒子ですし、実はそんなに優しくするわけでもないんです。だって、ここに来られているご利用者は決して〝可哀相なお年寄り〟ではないですから」そんなふうに彼らの生活をさりげなくサポートするのは「若松の風」の管理者、鷺谷裕子さん。大規模施設での介護を長年経験した後、「もっと一人ひとりと深く関わって、真にご利用者を大事に出来るケアがしたい。」と思い、入社した。「ここでは、自分の思い描いていた理想の介護が実現できるんです。」と笑う。

原田匡代表

「ここには、他の施設にはない独特の時間の流れがあるんです」というのは「連雀の風」の管理者、高山仁美さん。「ここでは職員が二時間ただ黙って彼らの横にいて手を繋いでいる、なんていうこともあるんですよ」そんな静かな安らぎの場を提供できるのも、人と人との繋がりを大事にする茶話本舗ならではのサービスなのかもしれない。彼はいずれは郷里の宮崎に帰って、地域に根ざした介護施設を立ち上げようと考えている。

高山仁美さん

こうしたケアの仕方は、利用者二・五人に一人の配置という手厚い人員確保の上に成り立っている。目が届くから、あえて建物もバリアフリーにはしない。ゆっくりでもいいから自分で歩いてトイレに行くことがリハビリにもなる。車イスで生活していた人が歩けるようになり、要介護状態が軽くなった、というケースも多数生まれている、というから驚きだ。

さらには、泊りがけの夜間ケアサービスも受け付けている。一泊八百円と格安なので、利用希望者は大変多い。

この二つの事業所のオーナー、原田匡氏はほかにも様々な介護・医療関係の会社のサポート役も務める若き経営コンサルタントだ。彼がこの事業にこだわる理由は二つ。お年寄りたちからは常に学びがあるという実感と、介護の現場を活性化して、ご利用者や家族は勿論、職員など関わる全ての皆が真に元気になれる環境をつくりたい、というまっすぐな想いがあるからだ。

「誰もが気軽に利用できて、家族の助けにもなる。そこで働く職員も笑顔でいることができる。関わるみんなが幸せになれる、そんな地域密着型の施設を私は作りたいんです。これは社会貢献のド真ん中に切り込んでいける、とても魅力的な仕事なんですよ」

ここでは月に1回の誕生会でなく、一人ひとりのお誕生日をみんなで祝ってあげたい、と語る原田氏のまなざしは、常に熱くて優しいのだった。

鷺谷裕子さん

●茶話本舗 府中若松の風（担当 鷺谷、松本）
府中市若松町2-18-18
☎042-360-6933
●茶話本舗 三鷹連雀の風（担当 高山、太田）
三鷹市上連雀3-7-1
☎0422-40-5055
ホームページ：http://kaigo-genkika.